

第4章

公開授業・公開検討会

平成15年度山形大学教養教育改善充実特別事業

公開授業

日時：平成16年1月22日（木）10:30～12:00
授業名：英語（R）
授業者：山口 常夫（教育学部教授）
講義室：136番講義室（教養教育1号館3階）



公開検討会



日 時：平成16年1月22日（木）13:30～14:30
会 場：137番講義室（教養教育1号館3階）
内 容：上記公開授業を参観後、学外からの講師を
交え、当該授業に対する検討会を行う。

＝ 高等教育に関心のある市民・学生の皆さんの
多数の参加をお待ちしています＝

主 催：山形大学教育方法等改善委員会

お問い合わせ：山形大学学務部教務課教育企画係（023-628-4707）

第4章 公開授業・公開検討会

はじめに

本年度は、昨年の反省に基づいて、一度中断した他大学講師を招いて行う大規模なイベントとしての「公開授業＆検討会」を再開した。これまでの2回は、理系と文系の一般教育科目で行ってきたので、本年は一般教育科目と共に教養教育の大きな柱の一つをなす「英語」で公開授業＆検討会を行うことにした。これまでは、教育方法等改善委員会の教養教育改善充実特別事業作業班の班員の授業を公開してきた。今年は、作業班員に英語教員がいなかったため、委員会以外の教員に依頼することにした。そこで、以前から評判の高かった教育学部の山口常夫教授に授業の公開をお願いし、御快諾をいただいた。山口常夫氏には感謝申し上げる次第である。

このイベントとしての「公開授業＆検討会」の内容は本編に譲ることとしたいが、誰もが山口氏の素晴らしい授業展開に驚いた。今回、検討会には学内から2名の英語教員が参加したが、彼等は教員になって初めて、他の英語教員の授業を参観したと言っていた。そして、参観し検討会に参加することによって、自分の授業の改善に資するところが大きかったと感想を述べている。

英語教育は山形大学の教養教育の生命線である。是非とも、ドイツ語集団と同じように、英語教員集団においても「公開授業＆検討会」と「英語教育のより良いシステムづくり」を行っていただきたい。英語教育が山形大学の教養教育の看板になってくれることを期待する。

本年度の「公開授業＆検討会」は前期から開始した。申し込み件数は、前期16件、後期10件と、いずれも昨年度後期の8件よりも増加した。「公開授業＆検討会」を開始して本年度で3年目となるが、着実に件数が増加している。ところで、申し込み件数に対して、参観後の委員会に提出されたアンケートが少ない。「公開授業＆検討会」の成果をみんなで共有するためにも、是非ともアンケートを提出してほしいところである。

また、申し込んだにも関わらず、実際には、「公開授業＆検討会」が行われなかったことも考えられる。あるものでは、誰も参観者がいなかったため開けなかったのかもしれない。この「公開授業＆検討会」は、授業者が自分で参観者を見つけてくるシステムである。「いつ誰でも参観していいですよ」という形態では、誰も参観に来る可能性がないことは、すでに本委員会で実証済みである(2000年度の報告書を参照)。もし、参観者が見つからなければ、委員会に声をかけていただければ、参観者を都合できるかもしれない。

昨年度より開始された「ドイツ語」グループによる「公開授業＆検討会」も継続的に行われており、敬服に値する。アンケートにも書かれていることであるが、マンネリ化を防止するために、グループ内だけでなく他分野の教員の参観や検討会への参加も促した方がよい時期に来ているのかもしれない。

2年連続で同じ参観者で実施された「公開授業＆検討会」には、仙道富士郎学長の授業「山大マインド 先輩の話聞いてみよう(教養セミナー)」がある。検討会の内容は昨年度と今年の報告書の本文を読んでもらいたい。この授業は、昨年は「ようこそ先輩(教養セミナー)」という授業科目名であった。この名称が代わったのは、昨年度の検討会で出された指摘がきっかけであった。他にも、開講時期、授業の形態、授業者である学長の授業の関わり方などに昨年度の検討会の成果が生きている。今年は、検討会でより過激な指摘がなされ、その指摘に基づいて、来年度の授業が進化するようである。

このように、一つの授業の同じメンバーによる継続的な参観と検討会が、授業の持続的な改善に果たす効果は大きいものがある。当然、授業者は参観者を信頼し、厳しい意見に対しては聞く耳を持たなければならないのだけれども、

本年度の「公開授業＆検討会」の新しい試みは、「新・生命再考(教養セミナー)」の授業で行われた。参観者は事務職員だけで、教員は1人も含まれなかった。授業終了後の検討会は、授業者と履修学生、そして参観した5人の事務職員で行われた。

授業の公開を大学の教員以外に広げることは、すでに全国の大学で行われている。例えば高校生に、例えば高等教育に関心のある一般市民に。後者は、本事業においてもポスターで参加を呼びかけている。またこの他に、教室内の授業をビデオで撮り、それをインターネットで流して公開し、FDの効果を狙っている大学も存在する。

このように授業が市民に広く公開される時代になってきているが、大学の構成員である事務職員が授業を参観することは全くと言っていいほどない。ましてや、検討会に加わることはありえなかった。大学の教育環境を良くするためには、事務職員の理解なくしてはできない。我々は臆より始めなければならない。こうした考えの下に、今回、事務職員へ授業が公開された。詳細については、本文を読んでもらいたい。狭い教室ではあるが、学生は自分たちのこと(ディベート)に熱中し、参観者を気にする様子はほとんどなかった。事務職員は、学生が調べてきたことを基にして、手際よくディベートを進行することに驚いていた。事務窓口でしか接しない頼りない学生が、しっかりしていることに目を見張ったようである。

授業後に事務職員と履修者全員で検討会を行った。事務職員による授業の感想が一巡した後で、学生たちが事務職員に「事務の方々はいったいどのような仕事をしているのですか。今日一日したことを話してください」「どうして大学の事務職員になったんですか」という質問を出した。事務職員の方々は一人ずつ丁寧にその質問に答えていった。さらに、学生は大学に対する具体的な要望を語った。事務職員の方々は真剣に受け答えをしてくれた。こうしたことは、教員の授業改善に結びつくことではないけれども、大学の教育環境を良くすることに大きな役割を果たす。このことは事務職員の方々からも感想とし

て述べられた。事務職員の方々に授業を参観してもらい、学生と一緒に検討会を行うことは意義深いことであった。市民への授業公開を進めると同時に、事務職員への授業公開を進めていく必要があると思われる。事務職員も日常業務で多忙であるが、一年に一回くらい自分の大学の教員の授業を参観して、教員と学生を観察し、授業を理解することも必要なことなのではなかろうか。

自分の授業を改善するためには、他の教員の授業を観、他の教員に授業を観てもらえないだろうか。このように「公開授業&検討会」は授業改善するための良い方法である。これからは、授業者に対して具体的かつ有益なアドバイスができる人たちが、学内にたくさん育っていかねばならない。そのためにも、多くの人たちに「公開授業&検討会」を経験してもらえない。

1 公開授業・公開検討会



公開授業・公開検討会 日程

【公開授業】

日 時 : 平成16年 1月22日 (木) 10:30 ~ 12:00
 講義室 : 136番講義室 (教養教育 1号館 3階)
 授業名 : 英語 (R)
 授業者 : 山口 常夫 (教育学部教授)

【公開検討会】

日 時 : 平成16年 1月22日 (木) 13:30 ~ 14:30
 会 場 : 137番講義室 (教養教育 1号館 3階)
 次 第 : 13:30 開会のあいさつ
 講師紹介
 13:40 授業の観察報告
 授業者の観察
 学生の観察
 授業全体の流れ
 13:55 授業者の意見
 14:00 講師の意見
 フリートーキング
 14:30 終了

公開検討会記録

出席者

講師 玉川大学教育学部 田中 義郎 教授
 授業者 教育学部 山口 常夫 教授
 司会 小田 隆治 委員
 観察者 授業者観察 丹野 憲昭 委員
 学生観察 江間 史明 委員
 参加者 元木 幸一 委員,尾方 隆司 委員,
 丸山 俊明 委員,久保田 功 委員
 人文学部 大河内 昌 助教授,
 鈴木 亨 助教授
 教育学部 豊田 東雄 教授
 理学部 鷗浦 啓 助教授
 東北芸術工科大学
 教養部 チャン・マーガレット
 教務課 伊藤 壮志,治部 珠子
 学務部 教務課長,教務課課長補佐,
 教務課教育企画係長,同主任,同係員

司会(小田) それでは、公開検討会を始めます。まずは、山口先生、御苦労さまでした。この公開授業は、これまで1回目に理科系の授業、2回目に文系の授業を行っています。3回目はこれまでとは異なり、大きな要素である外国語の授業ということで、評判の高い山口先生の英語の授業を公開授業とさせていただきます。

また、本日は、講師として、玉川大学教育学部の田中先生にもお越しいただいております。この後のシンポジウムのシンポジストでもありますので、この場での紹介は割愛させていただきます。それでは、授業者観察の報告、学生観察の報告、全体観察の報告の流れで進めていきたいと思います。まずは、授業者観察の報告を、丹野先生お願いします。



丹野 このようなまとめをするのは初めてですので、よろしくお願いします。私は、10時28～29分頃に講義室に入りましたが、山口先生は既に準備を始められ、資料を配付されていました。また、学生と話をしたり、非常にリラックスした感じがしました。学生の緊張感を取っているのがよく分かりました。

10時34分から授業がスタートしました。授業内容、採点の仕方の説明がありました。授業はマイクを使用し、論旨がハッキリしていました。服装はリラックスしたもので、授業に相応しいものでした。35分に板書、返り読みと・・・のどちらが大事かを強調されました。クイズや質問に学生が答えるという形で、良くコミュニケーションが取れていました。40分、コミュニケーションに

とって、いかに日本語が大事かについてのやりとががありました。52分、体系に慣れるという話があり、クイズを理解する場合には、文化的背景を理解することが大事だと強調されました。

11時過ぎに遅れて入ってきた学生がいましたが、名前、学生番号を聞き、注意を喚起されていました。2分、顔文字の話があり、学生の興味をそらさない、引き出す配慮が感じられました。31分、頭ごなし訳について、手や頭を使ってよく説明されていました。理解する力として文法力が大事であると強調されました。

40分から教科書に入りました。絶えず学生に質問して読ませでの繰り返しで、質問を引き出すよう工夫されていました。文化論の話題で、学生の興味を引いていました。59分、来週の発表者の予告(クイズと教科書の進め方)をして授業が終わりました。

司会 それでは、学生の観察報告を江間先生お願いします。江間 前の時間に私の授業があり、34分頃から観察を始めましたが、すでにクイズの説明が始まっていました。受講生は最初に42名、遅刻者が4名の計46名でした。机の上にはテキスト、配付資料、電子辞書、辞書、筆記用具が上がっており、ノートを出している学生は3～4名でした。基本的にA4の配付資料に沿って進行していました。遅刻は、10時37分と48分に1名ずつ、11時に2名が連れ立って入ってきました。最初の2名はそのままスッと席に座りましたが、11時の2名は、名前と学生番号を聞き、注意を促すような工夫をされていました。和やかな雰囲気の中にも厳しさを感じました。

19名の学生が発言しました。42～43名の学生のうちの19名ですので、約半数の学生が口を開いて発言をしたことになりました。佐藤友希さんには、後ろからじゃなく頭から訳すよと言いました。矢萩君がいなくて笠井君と指名し、次の課題は55番の人が手を挙げて、少し話をしました。5番目の人と「牛レ」の解釈について話をした時、「関係ないけど」と言いながら質問をする学生がいて、本当に関係のない文化が違うと言語習得は難しいのか」という質問で自分には良く理解できなかったのですが、山口先生は「分かった」とおっしゃって、under20とver20、ファイナル、セミアイナルと決勝、準決勝、準々決勝の例を出して説明されました。質問をした学生はうなずいて理解したようでした。



次の文章に入って、手を挙げる学生がいなくなりました。発言しませんか」点数になりますよ」と発言を促していました。携帯電話の顔文字が、日本語と英語では異なるというやりとがあって、11時8分に手を挙げる学生がいました。3番の課題は短いからか、関係する解釈や他の考えが出ましたがいずれも女子学生ばかりで、山口先生は男子学生を煽ったりしてしまし

た。一番後ろの男子学生が手を挙げた時、最初に「訳さなくても良いから読んでごらん」と言って、訳すと分かったか？分かったら訳してごらん」というように進められていました。その後、早口言葉を日本語で言える人2名、英語の早口言葉を紹介できる人2名の発言がありました。

11時36分からテキストに入りました。いつも活躍する人が決まっているのか、加藤君、秋葉さんの名前が挙がりました。他に、言葉を調べてきている学生がいました。小林さん、早坂さんが調べてきたことを発言しました。

12時に来週の予告がありました。「三澤さんと早坂さんは、今日できなかったので来週します」と連絡していました。授業が終わった後、18名ほどの学生が教卓近くに集まっていたのですが、何をしていたのか。点数の確認か何かだったのでしょ。お聞きしたいと思います。

小田 続いて全体観察の報告をします。時間どおり始まって、マイクを使って、動きのあるエネルギーな講義でした。「何か質問は？」ということに対し、分かんなかったのに「分かった」と言ってあげることはすごいことだなと思いました。10時53分でした。

全体の構成は、クイズとポイント制で成り立っていました。学生が関与する授業になっていて、全体として積極的でした。11時35分から教科書に入りました。中で、指名した学生が「自分は担当じゃなかったのやっていない」と言ったのに対し、「ダメでしょ」と言うものの怒らない。感情的にならない。私なんかこうはいかない。11時40分にサイケデリックという表現がありましたが、今の学生に分かるのかと思いました。45分頃に出席表が回って、最後に「来週はクイズと教科書を半分半分します。評価者云々」という説明がありましたが、評価者というのは何ですか。

続いて、授業者の山口先生をお願いします。

山口 マニュアルどおり、お褒めの言葉をいただきました。今日は公開授業でしたが、このための特別なことは何もありません。いつもこんな感じです。違うところはクイズをやったことです。暮れにやった小テストの点数が悪かったので、点数をあげるためです。資料は、去年の暮れに小テストをやったのですが、それが悪かったので、それをまとめたもの1部、新たなものが1部。マイクにはこだわりがあって使っています。私の声は大きいのでマイクを使わなくても良いのですが、学生の声が小さいのでマイクを使っています。声が小さいと聞かないし、大きいと必要以上のものも強引に頭に入ってくると。

評価というのは、発表者1名に対し評価者が3名います。それに自分を加えて4人が5点の持ち点で付け、4で割った平均点が発表者の点数になります。私は試験をあまりやらないので、ポイントを餌にして発表をさせます。キーワードについては、調べていいと言っています。これは教科書に書いていない+のこともみんなで共有していこうというものです。

田中 楽しい参観をさせていただきました。いくつかお伺いしたいことがあります。

私も似たような授業の展開をしており、同じような経験がありますが、久しぶりに面白いと思う英語の授業でした。英語(R)という授業の目標設定がどうなっているのか。どうい授業で、どこが目標なのか。今日の授業がどのくらいの位置付けなの

か。1回1回の授業にゴールが設定されているのか、最後にここまで学生が伸びるとい期待のものか。シラバスを見る時間がなかったので、後で教えていただきたいと思ひます。



板書についてですが、全体の流れで考えてみると、「コンテンツ重視の授業」と「パフォーマンス重視の授業」があります。コンテンツ重視のものは、板書、ノートづくりが重要になります。一方、パフォーマンス重視の授業では、板書の意味づけが異なります。取りこぼさないように、ポイントポイントを押さえ、全体のシリーズ、文脈が見えてくるようになる。この授業の場合、私が見た限り、後者ではないかと思ひますが、いかがでしょう。ゴールが見えてこないということがありますが、シリーズ型の授業か、1回1回の完結型でそれを積み上げてどこに持っていこうとしているのか、エデュケーション-引き出す、モチベーション-動機付けのマトリックスを考えていたんですけれども、十字のどこに位置するのか。モチベーションのように思ひますが、典型的なパフォーマンス・テストの授業ですから、なおさら他の英語の中のどこに位置付けられていて、この授業が終わった後、どこに持っていこうとしているのか。

設備の面では、構造上、相当御苦労されているのではないのでしょうか。語学の授業には全く適さない教室ですね。あの悪環境の中で御苦労されているのではないかと。ウナギの寝床のような長い教室で、後ろの方の学生は、ほとんど参加になっていない。また、ポイント制は学生にとってどのくらいのインセンティブになるのか。学生は、点数にあまりインセンティブを感じないと思ひます。



音読できるサイズはすばらしい。声を出して動きを出して、アクティブな授業を展開しておられる山口先生はどういう背景のお方かと、授業が終わった後小田先生にお聞きしたのですが、机の上だけで学んでいると、ああいう授業には限界があります。奥行きと幅の広さ、山口先生らしい授業でした。

最後に1点、とても楽しい、90分眠らない授業は久しぶりでした。あの授業は山口先生ならできるでしょうが、他の先生方には馴染まないのではないのでしょうか。公開授業を見た人がどれだけ共通項を持てるか、学生へのインセンティブだけではなく、他の先生のインセンティブにはどのくらいなっているのかということを感じました。

山口 授業の性格ですが、教養教育の英語は週に2回やっています。1回は英語(R)、もう1回は英語(C)です。英語(C)はCommunicationのCで、音声教材を使ったり、外国人教員のネイティブの授業をやったりしています。RはReaderで読解中

心の授業です。本来、私の専門はCですが、Rの重要性への個人的なこだわりから、ここ数年はRを担当しています。

1回1回完結の動機付け型授業ですが、なんとか学生を取り込んで参加させて楽しく勉強させたいと思ってやっています。最終的な目標は、「英語学」ではなく「英語楽」。直読直解型の英語の授業は、このところ様々な批判もありますが、もう1回振り返ってやらせることで英語の楽しさを分らせるというのがゴールです。

学生の動きがないということですが、正直な話、私の授業の「発言重視」というシラバスを見ても学生は集まってきません。ふたを開けると人気がない。10~15人しか集まりません。他はみんな、よそのクラスからもれてきた人。やる気のない学生ばかりで迷惑です。しかし、そこが狙い目。なんとか「面白かった」と感じさせるために、「パフォーマンス重視にならざるを得ません。



学生の持ち点は、出席点40点です。1回欠席するごとに5点マイナス。クイズや小テストをするのは何故か。発言する学生は決まっています点数にならない。お恥ずかしい話ですが、発言しない学生を救うためです。それが20点です。それでも合格率に達しないので、来週もう1度小テストをします。

他の先生は共有できるか。パフォーマンス重視の授業は、個人的にはしたくない。私もコンテンツ重視の授業をしたいのです。中には、もっと別の内容をやってほしいという学生もいます。本来、英語(R)ではコンテンツ重視のものをやるべきですが、できないので私の持ち味でパフォーマンスを加えてやっているというのが現状です。

田中 私自身感じたことがそれほどずれていませんでした。参考となったのは、パフォーマンススペースの授業の時、授業が全部終わった時の満足度ではなく、1回1回の中での満足度を充実させる授業のあり方、インタラクションのあり方を自分自身の参考としたいと思います。最後まで学生が持続させていくことは困難である。

司会 他の参観者の先生方からも伺いたいと思います。

尾方 人気がない授業というのは御謙遜で、評判の授業なので楽しみにしてきました。評判どおりのすばらしい内容で、引き込まれました。ただ気になったのは、すばらしい話術なんです。90分ずっとトップギアに入れっぱなしでは、学生は疲れるのではないんですか。少しストップする空間があっても良かったのではないかと思います。

マイクにこだわられる意図が、発表者に回答者の意識を高めようというものであって、学生が発表する時もマイク慣れしているように見えました。非常に工夫された授業で、毎回聞きたいと思いました。それから、音読中心かと思ってきたのですが、予想外でした。

山口 従来のものは、音読させて訳させるというものでした。

司会 音読中心のものは批判もあるので、すべてがそうでなくてもいいでしょう。



山口 私の授業では、前もって学生を割り当ててあります。大意を掴めれば良いという従来のものには、反発を感じています。大意を掴めても細かいところを理解していない。中身が分かっていないということを確認させる必要があります。今日の授業にはそれができていません。

丸山 私が受け持っている授業と比べて、学生と対話する授業なので驚きました。授業の中で半数の学生とコミュニケーションを取り、とても上手でした。理学部地球科学科では、地球科学入門的な内容の英語を訳させる授業をやっていますので、その時の参考にさせていただきます。ものに関する資料の提示について、我々の視点では、どうしてもスクリーンなど映像を見せることが多いので、OHPなどで見せていただければもっと授業に入っていけるのではないかと感じました。教室も、理想的な教室でないにも関わらず、御努力されていると思います。

久保田 医学部では、数年前からコアカリキュラムをやっており、私も担当している。コアカリキュラムで、誰がやっても最低限のことをやるというのを目指している。このたびの授業とは位置付けが違うと思いました。しかし、非常に楽しい授業で、聴講生になって聞きたいと思いました。ちょっとハイレベルで、当てられないかと心配しました。

鈴木 噂には聞いていましたが、山口先生の技量に感服しました。全く飽きない。ただ、情報があまりにも多すぎて、半分くらいしか学生に伝わっていないのではないかと心配です。私も英語を担当しているので、自分が気落ちするくらい文句のつけようのない授業でした。これほどの技量の授業であっても、学生へのモチベーションを上げられない。学生の動機付けをいかに高めるか苦労されているのだらうと思います。比べると、私の授業は受け身で消極的です。

同業者なので苦労が分かるのですが、ものすごく細かいところまで工夫されている。それでも、このくらいしか学生が反応しないのか。山大的学生の状況を物語っていると思います。この点が一番気になったところです。

それから、教室の問題で、あの教室が英語に向いていないとのことでしたが、あの教室は一番くらい良い教室です。

大河内 他の先生の英語の授業を見るのは初めてで、参考になりました。私は性格的に一方通行になりがちで、専門科目の学生アンケートでも、あまりにも一方通行になりすぎて眠くなるとコメントされるくらい



です。学生はインタラクティブな授業を求めていると思っていますが、なかなかうまくいかない。山口先生の授業はマイクを使っているらしいですが、学生とインタラクティブな授業を行うことに関するヒントとして、自分の収穫になりました。

学生の英語のモチベーションについては、学生の基礎学力が下がっているのを感じていたので、独特の感想があります。田中先生からゴールの話がありました。英語の目標は動機付けもそうですけど、TOEICなど数値化したところを目標にしている大学が増えています。関連して、そういうことも考えなければならぬと思います。

司会 モチベーションを狙いにしているところで、技術的に高い授業であっても上がらない。仕方なく集まってきた学生のモチベーションは、本当に上がっているのですか。

山口 手前味噌になるが、評価結果からは、いやいやだった学生もモチベーションが上がっていると感じられます。パフォーマンス的にやっているの、話を聞いて楽しめるんじゃないかと思っています。

先ほどTOEICの話がありました。文字だけ見ても分からない、文化が分からなければ理解できない問題になっています。例えば、サンフランシスコのケーブルカーの写真を見て、これは何をしているところかという問題は、経験したことがなければ分からない。これは、ゴールまで来たらグルーッと回るんですね。それから押す時も前を向いてではなく、背中で押す。こういったことは言語力だけではとても分からない。背景となっている文化を理解しなければならぬ。

みんながみんなではないのですが、もっと真面目な授業をやってください」という学生もいます。そういう学生には、「ゴメンね。私の授業はこういう授業だから、自分で探して他の授業に行ってくださいね」と言っています。



田中 パフォーマンスとコンテンツは別のものではありません。モチベーションが高まってもそれ以上高まらない時には、知識や技術が必要になります。相乗効果です。インセンティブをどうしようという時に、学外の検定を2回受けさせています。英語の学びと社会的インセンティブを結びつけられないか。この方法がベストではないが、語学力が高まったことが、第三者(他の人)にも認められることがモチベーションになります。それと授業を結びつけられないか、良いアイデアを模索しています。

山口 我々も年に6~7回学内TOEICをしており、現在は正式TOEICをやる手続きを進めているが、学生の主体性に任せています。また、工学部ではJABEE対応で、学生のレベルがどのくらい高まっているかのものさしが求められています。我々担当者が全員集まって、ここまで学生を高めよう、教材作

りをこうしようということをしていない。各教員任せです。どこかで目標づくりをしていかなければならないのではないかと思います。

元木 とっても良い公開授業でした。山形大学の最悪の教室の状況が明らかになったのではないのでしょうか。学生にマイクを使わせるのは、私にとってはストレスです。というのは、私の授業は大教室なので、ピンマイクとハンドマイクで4本使っているが、どれも満足に使えない。つくづく講義室の整備が大事だと思いました。教務課の方、よろしく願います。

司会 大学でも評判の高い山口先生の授業でも、同業者が



見る機会がないということでしたが、これからもこのような機会を増やして、同業者としての悩みなども共有していただければと思います。本日はどうもありがとうございました。こ

の後、引き続きシンポジウムを開催しますので、そちらの方にも御参加ください。

公開授業・公開検討会アンケート結果

設問1 今回の授業の感想を自由に書いてください。

設問2 今回の授業を公開・参観して、御自身の授業をどのように振り返られましたか。何でも、自由に記述してください。

設問3 公開授業・公開検討会はいかがでしたか。何でも、自由に記述してください。



授業参観者のアンケート

参観者1：人文学部

設問1について

クイズの使い方、マイクの使い方が参考になった。
一般的に学生とインタラクティブな関係をつくりながら授業を進める態度がはっきりしていた。
点数制度が興味深かった。

設問2について

授業中に学生の反応を引き出す方法が参考になった。

設問3について

思ったよりずっと参考になった。タイプの違う教官の授業を見るのは面白いです。

参観者2：人文学部

設問1について

学生との間にInteractiveな関係を作る工夫がなされており、たいへん魅力的な授業だった。自分が学生のときにこのような授業を受けていたら、かなり影響を受けたのではないかと思います(英語教師として)

設問2について

根本的な技量が違うので、同じことをすべてマネはできないが、刺激を受け、参考となる点が多かった。ただ、あれほどの技量を持ちながら(英語教師としては理想的である)、この程度までしか学生の積極性を引き出せないのか、という学生の現状をあらためて見せつけられ、英語教育の困難さを痛感した。

設問3について

観察報告はもう少し手短かに。フリー トーキングをもっと長くやれるといいと思う

参観者3：教育学部

設問1について

前評判どおり、個性の発揮されたとても上手な授業でした。授業は、授業者の能力や技術、そしてキャラクターに強く依存しているのだと思いました。ですが、若干そうしたことに隠れて学生のキャラクターが見えてこなかったようにも思いました。

設問2について

山口さんの冗談やウイットが学生にあまり通じていなかったようです。それは、授業者と学生の知識の差、そしてそれ以上にジェネレーションギャップがあるようです。私の授業にもそれはあるのだと思います。そうしたことを自覚しながら、学生に基礎的知識を身につけさせていかなければいけないのだと思いました。

設問3について

今回は英語の授業を様々な分野の教員が参観し、そのノウハウを共有したわけですが、「英語」は大学教育の中で多大なニーズと期待があるので、是非とも「英語」の教員だけでミニ公開授業＆ミニ公開検討会を行っていただきたいと思います。



参観者4：教育学部

設問1について

ただ訳すにおわらないという英語授業のあり方、勉強になりました。

設問2について

学生にノートをとることをトレーニングすることの必要性。

設問3について

シラバスを資料として用意したらどうでしょうか。

参観者5：教育学部

設問1について

はつらつとした授業で、おもしろく参加させていただきました。

設問2について

業界の内容が異なるので、山口さんの授業のようにはいかならないな、と思っております。

自分の授業は自分のペースで行われなければと再確認しております。

参観者6：理学部

設問1について

すばらしい話術に、つい授業に熱中してしまいました。

設問2について

学生を授業に引き込む話題作りの大切さが身にしみました。

設問3について

公開授業というよりは公開講演に参加したように山口先生の授業に引きずられて聞いてしまいました。大変豊富な話題には感心しました。

参観者7：理学部

設問1について

英語に対する考え方に共感。(願ごなし訳、文章以外の背景など)

学生とのcommunicationがよくとれていた。

設問 2について

自分の講義中心の授業をふりかえて、学生とどのようにcommunicationをとるか、困難さを感じている。

設問 3について

自らの授業を考えるよい機会になった。



参観者 8：理学部

設問 1について

学生との対話方式が印象的で効果的だと感じた。引越トラックの映像をスクリーンでみたかった。

設問 2について

自然科学なので物事事象を中心とした授業になり、「もの」を中心に話を進めていっていることを自覚した。

設問 3について

田中先生の専門的な分析コメントを拝聴できて、とても参考になった。多分野の教員の意見を聴けて、自分の授業にためるところがないか考えてみようと思った。

参観者 9：理学部

設問 1について

学生とのコミュニケーションがうまくいっているように感じた。

学生も楽しく、集中して聞いていたように感じた。

学生は意外に生真面目だということがわかった。

設問 2について

話し方について参考になった。今回の授業と比較して、私の授業では、学生の考えていることなどを聞き出す機会が足りないと感じた。成績評価の仕方も、私の方法に比べて多様であると感じた。

設問 3について

一つの授業もいろいろな角度から見ると、いろいろな発見があるものだとことを実感した。



参観者10：医学部

設問 1について

よかった。とくに、

学生との対話形式。

発音がよく、声もはっきりわかる。

人数も適当である。

学生の自主的発言が多いのに感心した。

設問 2について

声ははっきりしない。

学生との対話が少ない。

設問 3について

自分の学生時代を思い出した。

参観者11：東北芸術工科大学

設問 1について

教員の熱意はよく伝わってきました。

なかなか発言しようしない学生でも、できるだけ一人一人に質問をさせたり、朗読 和訳させたりしている姿は新鮮でした。

設問 2について

事務局職員ですので該当しませんが、是非本学教員に見せたいと思います。



参観者12：東北芸術工科大学

設問 1について

シラバスを見なかったので、英語の授業にしては日本語が多いと思った。しかし、「R」と「C」がセット履修であることがわかり、教え方も魅力ある授業であると思った。受講者は今の半分くらいが望ましい。

2 ミニ公開授業 & ミニ公開検討会

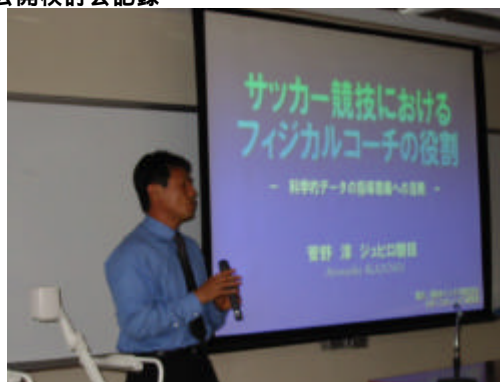
ミニ公開授業 & ミニ公開検討会登録授業（前期）

授 業 名	担当教官
臨床発達心理学入門 (心理学)	佐竹 真次
戦後の日本経済を総括する (経済学)	田中 史郎
微分積分学 1 (数理科学 A)	内田 伏一
関数とグラフ (数理科学 P)	大池 宏清
宇宙の起源と終末 (物理学 B)	加藤 静吾
相対論入門 (物理学 B)	郡司 修一
色・光・分子の話 (化学 A)	伊藤 廣記
酸化と還元化学 (化学 A)	鶴浦 啓
文系と理系の接点 (教養セミナー)	荒木 慶彦
コンピュータ社会を生き抜く (工学 C)	古閑 敏夫
山大マインド-先輩の話を聞いてみよう! (教養セミナー)	仙道富士郎
人間の生活と農業 (総合)	上林美保子
逆境に生きる生物と資源利用 (総合)	後藤三千代
英語 (R)	岡田 毅
ドイツ語 (C)	渡辺 将尚
情報処理	立花 和宏

ミニ公開授業 & ミニ公開検討会登録授業（後期）

授 業 名	担当教官
なぜ人を殺してはいけないのか (哲学)	平田 俊博
ドイツとヨーロッパ諸国 (教養セミナー)	クリスト・カ
物質の状態と変化 (化学)	加藤 良清
新 生命再考 (教養セミナー)	小田 隆治
技術者倫理 (技術論)	菅原 陸郎
景観を読む (総合)	八木 浩司
農地と人間 (総合)	夏賀 元康
ドイツ語	奥村 淳
ドイツ語	クリスト・カ
情報処理	加藤 良清

ミニ公開検討会記録



授業名 : 山大マインド-先輩の話を聞いてみよう!
(教養セミナー)

実施日 : 平成15年 5月30日 (金)

7・8,9・10校時 (14:40~18:00)

検討会参加者 : 人文学部教員 3名, 教育学部教員 2名,
理学部教員 2名, 事務局11名, 報道機関 3社
出席学生 : 53名

授業者 : 仙道 富士郎 (学長)

担当講師: 菅野 淳 ジュビロ磐田フィジカルコーチ

参観者 : 人文学部 元木 幸一, 立松 潔,
中村 三春, 渡辺 将尚

教育学部 小田 隆治

列席者 : 学務部教務課長, 教務課課長補佐,
教務課教育企画係主任



立松 先輩の話を聞くという授業は、授業として非常に良い感じを受けた。ただ、授業者がどのように関わるかということ、なかなか難しい。本当は、何も言わずに聞いているのが楽だが、この授業は今年度で2回目であり、積み重なって良いものになってきた。もう1~2年続けて、ノウハウを蓄積していただきたい。

渡辺 学生が授業を作ると聞いていたので、なかなか議論ができないと思っていたが、学生もやらせればできるなと感心した。普段は、一方通行で授業しているが、考えよと言えば、ディスカッションも成り立つことを知った。

中村 学生のおしゃべりが、大変面白かった。ただし、講師のパーソナリティに大きく依存しているのではないかと。

今日は、ある学生の発言がきっかけで、部活という共同体の中での人間関係に議論が移っていった。このような場合、授業としてはどうか。授業担当教官は、ある方向性に導く必要がある。こういう風にとやまず、交通整理をして持っていくには、長い時間がかかる。あの場でそれをやらせるには、何らかの導入が必要ではないか。仙道教官がいなくても、講師さえいれば



良いというのでは、授業とは言えない。動機付けは、教官がしなければならないのではないかと。

また、今日は全く発言しない人もいたと思う。あの話題についていけない人もいた。成功したように見えるが、授業である以上、やはり公平性が必要であり、全く違う話題に持って行って発言させると言うことも必要ではないか。

仙道 おっしゃることは良く分かるが、動機付けを学生にやらせるとすれば、かなりの能力がないと無理ではないか。前回の授業では、非常にうまく学生が運営して成功したが、うまく運営できるかどうかは、司会者に依存するようだ。



元木 司会の技術は、事前の研究が必要。決まったテーマごとに研究グループを作って準備する必要がある。

仙道 昨年の経験を踏まえて、今年は1週間前から運営の方法を準備させるようにしたが、結局、司会者の力量にかかっている。講師がうまく、議論をリードしたこともあったが、そうになると、逆に司会が要らなくなる。

受講生は踏ん張ってディベートをやらそうとしているが、7回とも全く違う。どのようにすれば、うまく運営させることができるのか。講師と学生の1対1のディスカッションにはなるが、学生どおしのディスカッションがない。放っておくと、医学科の学生ばかりしゃべって、「けしからん」となる。

中村 ディスカッションの発言回数にはマナーがあり、これは自然と体得していくものではないか。授業としてのまとまりはどうなのか。この授業は、話題性があるので成功だと思うが、話題性だけではないか。

仙道 昨年は1コマ目と2コマ目の間に空き時間が入ったが、今年は2コマの持続性を持たせるため連続した授業とし、短い休み時間に質問を整理させた。これがなかなか難しい。



中村 今日の授業は、学生の過去の告白で、聞いていて痛々しかった。

仙道 講師は脇に置いておいて話し合うということを考え出したようだ。

中村 学生はやりたがるだろうが、動機付けがないと、建設的ではない。

小田 学生は講師の前では、ただの観客になっている。気骨のある人間はいない。

立松 学生は、これまでのスタンスを見て、気にしなくなっているのではないかと。

中村 あそこまで放任していると、発言する気にはなかなかならないのではないかと。

小田 パターンを見せなければならないのではないかと。

中村 いきなりディスカッションではなく、パネルディスカッションをやっても良いのではないかと。

仙道 学生の間には、一つ大きなものとして、「不本意入学」と「コンプレックス」の問題がある。重いテーマだが、何人かパネラーを出して、それをベースにしてやることもあるだろう。

もう一つ、今の学祭はつまらない。かなり中途半端で、ショックを受けた。君たちで何かやってみなさいと言ったら、十数人が反応した。

小田 学生個人個人は成長しているように感じられるか。

仙道 面白い学生は、確かに面白い。

立松 この期間は、成長する時間ではない。

仙道 今日いただいた御指摘は大変ありがたいが、実現は、なかなか難しい。

小田 現状は現状で有意義だと思う。

仙道 講義の後半は学生のフラストレーションが出るケースが多いが、失敗ばかりでもない。前々回は、最初から2グループに分けてディベートをやるようとしたが、ものの見事に失敗した。前回は、その失敗を受け、移動式の机の講義室に変更し、円形のスタイルとし、成功した。しかし、円が大き



すぎて議論が散漫になったため、今回は二重の円にして、学生どおしの間を緊密にした。学生は学生なりに工夫をしている。

中村 受講生の結束が強いのではないかと。むしろ、今回の授業は公開なのに、数人しか教官が見に来ない。このような機会には、大勢の教官が見に来ることが大切ではないか。この授業は「山大マインド」。教官にとっての「山大マインド」は、こんなに冷え切ったマインドなのか。何とか変えなければならない。

小田 司会者が質問めいたことを言った時に、各自の答えも持たせると意義があるのではないかと。

中村 仙道教官のやり方は、パターン化しない。でも、一方で方法を学んでほしいと言う。ある程度の技術を身につけさせることは必要ではないか。

仙道 もっと引っ張っていく人間に、グループを引っ張らせるよう、班編制を工夫する必要があるのかもしれない。学生達は、班では、かなり責任感を持って、やっている。

小田 この授業の雰囲気は、概してとても良いものがあると感じた。

来年は、さらに工夫を重ねていただきたい。



ニ公開授業・ニ公開検討会アンケート結果

授業科目名：

授業者：

公開日時：月 日（ ）：～：

参観者：

設問1 今回の授業の感想を自由に書いてください。

設問2 今回の授業を公開・参観して、御自身の授業をどのように振り返られましたか。何でも、自由に記述してください。

設問3 ニ公開授業&ニ公開検討会はいかがでしたか。何でも、自由に記述してください。

【前期】

ニ公開授業1

授業科目名：山大マインド-先輩の話を聞いてみよう!
(教養セミナー)

授業者：仙道 富士郎(学長)

公開日時：5月30日(金) 14:40~18:00

授業参観者のアンケート

参観者1：人文学部

設問1について

徐々に学生が積極的に発言するようになり、良い雰囲気の授業だった。ただ、授業はクラブ活動とは異なり、学問を基盤とすべきものだろうと思うが、その点が曖昧なような気がした。

設問2について

教師の発言のタイミングが、非常に難しいと思った。

設問3について

自由な雰囲気です、大変良かった。

参観者2：人文学部

設問1について

大学の先輩の話を聞きながら、自分たちの関心事を討論できる、こういう授業に参加できる学生は幸せだと思う。学生を主体とする進行にはぎこちない面もあったが、これは経験によって成長するものなので、最初から完成度の高いものを求める必要はないと思う。

設問2について

学生主体型の授業は、日本ではまだ実験的導入の段階である。しかも学生を主体とするだけに、担当教員の側で、どう授業をデザインするかが重要である。学生層、テーマ等に応じて、やり方をさまざまに工夫しなければならない。

私も専門の演習で数年前から取り入れているが、毎回やり方を工夫し、変化(発展)させている。こういう公開授業に参加することは、そういう工夫のアイデアを得るためにも大変有意義だと思う。

設問3について

いろいろな意見が活発に出て感心した。その中には賛成できないものもあるが、啓発される内容も多かった。多くの大学の教員は授業についてそれぞれ自分の考えがあり、工夫を凝

らしているが、従来はそういう面での交流は少なかったと思う。そういう意味でも公開授業・検討会は有意義な場になっている。



参観者3：人文学部

設問1について

学生が後半の授業をとりしきると聞いて、本当にできるのかと半信半疑で見えていましたが、最終的に形になったことに感心しました。また、議論として面白い場面も多々ありました。

設問2について

私の授業でも文化的な話題について学生の意見を聞く機会をつくっていますが、教官が先に意見を言うと、学生が萎縮してしまうケースがあります。今回の授業のように学生に問題設定をさせ、口火を切ってもらう方法も有効であると感じました。

設問3について

今回の授業は斬新なこころみであり、学生にも資するところが大きいと思いました。

ただし、大学教育にはこのような「華々しい」授業だけでなく、学生に地道な努力をせまる「地味な」授業も必要であり、学生がその点をはきちがえないよう教育を行っていかねばならないことも同時に感じました。



参観者4：教育学部

設問1について

学長自らが授業をする、という全国でも例を見ない、山形大学の看板授業である。また、毎回、山形大学の卒業生を講師に招いて、彼らの話を聴かせ、入学生に山形大学生としての誇りを持たせる狙いは、素晴らしいものであると言える。学長の授業と卒業生の講演という二重の意味で贅沢な授業である。

今回の講師がJリーグのコーチということで、多くの学生も興味深い話であったはずである。今回のみならず、多様な職種と年齢層によって構成された講師陣は、とてもいい人選だと言える。学生には視野を広げるいい機会になっているのではなかろうか。

今回の講師の明るさもいい。活き活きとしているのである。それほどサッカーに興味のない私にとっても楽しい時間だった。

授業後半の講師を交えた議論のために、固定机と椅子の

教室から、これらが移動できる教室にみんなで移動した。そして学生は机などを移動して車座を作り議論を開始した。車座は、学生の意見で前回の一重から二重になったそうである。こうした教室の移動や車座の構成はすべて学生のアイデアだそうである。学生が主体的に授業を進化させていることは素晴らしいことだった。

学長も議論に積極的に参加し、真面目に学生に反応していた。こうしたことも、学生が山形大学に誇りを持つ大きな要因となるであろう。

卒業生の講演や、受講生の議論風景などを日常的に公開してはどうだろうか。もっと多くの学生に見せてあげればいいのかではないだろうか。時には、高校生にも見せてあげればいいのか。この授業は高い可能性を秘めている。これからもっとスケールの大きな授業に進化していくことを願っている。

設問 2 について

学生の議論は、決して授業者の思った通りにはいかない。どんどん話が横道にそれていくのである。それはそれでいいことなのだろう。学生は拡散するような話し合いを徹底的にした経験もなさそうなので、通過儀礼としてやらせてみることも必要なのだろう。授業者の思うようなパターンにはめ込むことはよくないのだろう。

学生の司会者は質問しない人を当てたりする。そうした工夫をしてくるはずだ。だが、学生の引出しは少ない。そうした時、授業者の援助が必要になってくるだろう。あの手この手で議論を活発にしていかなければならないが、表面上の活発さとらわれる必要もないのだろう。

設問 3 について

とても有意義でした。でも、過度のないものねだりは建設的ではないでしょう。少しでも、より良い授業を創っていくこと。その現実的なところに寄与するために、三公開授業&検討会はあるはずです。

参観者 5：理学部

設問 1 について

運動の話らしく、スピード感あり、メリハリのある巧みな話術で、話に引き込まれる。細かいことにこだわらない。

設問 2 について

1のいずれも、私の授業には欠けているので、運動と自然科学の話では、そのまま取り入れることはできないが、できるだけ参考にしたいと思います。

参観者 6：理学部

設問 1 について

「サッカー競技におけるフィジカルコーチの役割」というタイトルでの授業でしたが、「サッカー」世界だけではなく、いろいろな社会で通用するであろう考え方（年間計画、チーム目標設定、個別プログラム、スポーツライフ、育成等）に触れることができ、有意義でした。

今回の授業のように、(内容豊富な)データ提供型、一方向的授業では、学生がどこまでノートを作ることができるか。その

難しさを感じました。ここ数年、学生のノートを取る力(メモ力)は、明らかに落ちていると思っています。

設問 2 について

私の授業では、私の板書を写す(させる)ことが教育の一つとも考えていますが、今回の授業を見て、「視覚的なプレゼンテーションの面白さ」を意識してみても良いかな?と思いました。

授業者のアンケート

設問 1 について

山形大学卒業生による講義はインパクトが大きいですが、それに連動する後半の討論は、やはり上首尾には運ばれていない。

設問 2 について

後半の討論部分をどうhandleするかの方策を来年度までに見出す必要ありと、強く感じた。

設問 3 について

後半の討論部分に対する多くのsuggestionをいただき、大変、有効であった。



三公開授業 2

授業科目名：逆境に生きる生物と資源利用 (総合)

(リモート講義システムによる集中講義)

授業者：三橋 渉 (農学部)

公開日時：9月4日(木) 8:50~10:20

授業参観者のアンケート

参観者 1：農学部

設問 1 について

三橋先生はパワーポイントを使用してリモート講義をされましたが、大変参考になりました。

パワーポイントの画面が美しく、写真や図が多く配置され、漫画で表現されるなどシンプルで分かりやすかった。字数が少なく、大きく、良くまとめられており、理解しやすかった。動画が利用され、印象深い内容となった。時々書き込みされたり、をつけたりし、話の重点が明確になった。

パワーポイントのノートの取り方をまず指導され、学生の身になって説明される姿勢がまず示された。

設問 2 について

私もパワーポイントを使用して講義をしているが、学生からよく画面の切り替えが早すぎると言われる。それで学生のペースで切り替えると授業が進まない。それで困っていたが、まとめて早くノートを取るのも訓練です」と言う三橋先生の指導は参考になった。

動画の使用、書き込みの使用など、私も自分の授業に取り入れたいと思った。

パワーポイントはどうしても単調になるので、画面を離れた説明をどう取り入れるか等の必要性が、学生の立場から見えた。

設問3について

他の先生の講義を聴かせてもらう機会はなかなかないので、こういう機会に堂々と参観でき、大変参考になった。学生の感想を聞いても、三橋先生の授業が最も人気があり、学生の望む授業のあり方を学ぶことができ、今後の授業に活かしていきたいと感じた。

参観者2：農学部

設問1について

パワーポイントの作り方、使い方が参考になった。

設問2について

授業で用いるパワーポイントを改良する。

参観者3：農学部

設問1について

リモート講義のため、ほとんどの学生が画面の向こう側にいる状態だったため、受講生の「なま」の反応はあまり掴めなかった。

講義はすべてプロジェクターを使った映像を用いて行われ、その内容はよく準備されていた。しかし、農学部の講義室で、直接講義を聴いていた学生を見ていた限りは、一部を除いてノートを取る者も少なく、折角の内容も聞き流してしまう傾向が見受けられ、映像による講義での、ノートの取らせ方が課題としてあるのではないかと思った。

設問2について

板書したものを学生が逐次ノートしながら進む、いわば「なま」の講義と比べ、映像を主体とする講義では、授業者の伝えたい内容が、映像によって、いわば「間接的」に出て行くこととなるため、同じ内容でも学生に与えるインパクトは多少希薄になり、講義が終われば、その内容をより早く忘れてしまうのではと思った。従って、このような講義の形式では、細かいことより、その講義で取り上げた話題の全体像を掴んでもらうことを主目的に、講義の内容を組み立てた方が良いのではないかという印象を持った。

参観者4：農学部

設問1について

授業に先立ってポイントを説明している点が良かった。

設問2について

上記の点について、自分の授業に取り入れることにしました。

授業者のアンケート

設問1について

教養教育の講義は、担当教員のポリシーなども学生に語れる場であると考えているが、慣れていないこともあり、公開講義では参観教員の目を意識して、学生にフレンドリーに語りかけることができにくかった。

設問2について

参観教員の目を意識することで、自分の講義の論理的展

開の不備などを実感できる点もあったが、分担講義の1回分の講義なので、こうした取り組みがどういう成果につながるのか、疑問もある。

設問3について

今回は、教養教育の講義を対象として行われた。教育委員会等の御努力もあるが、大学として、いまだに教養教育のスタンスが固まっていないと思われる。そのため、教員により、そのスタンスが大きく異なり、共通の立場で検討することが困難となっているのではないかと。目的の実らない講義は、本来、検討不可能ではないか。

ニ公開授業3

授業科目名：英語(R)

授業者：岡田 毅(教育学部)

公開日時：6月12日(木) 10:30~12:00

授業参観者のアンケート

参観者1：教育学部

設問1について

Audio-Visual教材の適切な使用や、良く目配りされた授業の進め方により、学生が興味を持って授業に臨んでいる姿が印象的であった。また、ポイント制の導入などで、学生の積極的授業参加を引き出しているのも見事であった。こうした授業は、学生が高校までに体験したものとはかなり異なる側面があると思われるが、それが彼らの学力伸長にどのように寄与したのか知りたいところである。

設問2について

自分の授業とはかなり異なっていたので、学生の積極性の促し方など、学ぶ点が多かった。例えば、席を指定することは、学生の名前を早く覚え、学生の学力に応じた指導をするのに有効な手段だと教えられた。

参観者2：教育学部

設問1について

率直な感想としては、私達が40年前に受けた英語の授業内容とは大きく変化した、ということである。特に英会話力に関心を持つ学生であれば、実用的な語学力を修得できるので、ある意味ではうやまいしと思った。

教室(127番講義室)が大きすぎるのではないかと。

設問2について

教材が英語なので、ビデオ内の会話を聴き取れない学生の指導はどうするのであろうかと自分の授業に照らして、考えを伺いたかった。自分の授業の場合は、高等学校で学んでいる数学を基礎にして、化学を学習しているが、技術的な数学力の欠如により、教員も学生も種々悩んでいる。

設問3について

90分の授業に比して、終始集中しているのは、結構大変なものであると実感しました。

50分くらいの短い時間の検討会でしたし、また、他教科の授業でしたが、何かしら得るものがあったように感じられました。担当の岡田先生、御苦労さまでした。

参観者3：教育学部

設問1について

岡田先生の授業は、授業の間中、活発に動き回り、声が大きく、学生に熱心に教え、とにかく分からせようという姿勢が、こちらに強烈に伝わるものでした。それは学生も十分分かっていて、授業の間中、熱心に授業に参加していました。自著のテキストのみならずコンピュータ技術を駆使してビデオなどを見せ、また授業の途中に小テストをするなど、見事な授業設計でした。

「アメリカ国歌を歌える学生は？」と先生が聞いたところ、1人の女子学生が手を挙げて、それをみんなの前で歌ったことは、学生と岡田先生の信頼関係が良い形で築かれていることが伺われました。また、授業で手を挙げて応えた学生に点を加算していく「ポイント制」は、学生を授業にコミットさせる上で、とても有効な方法だと思いました。

先生はマイクを使って話していますが、学生がテキストを読む時にもマイクを使わせた方が良く思われました。あと、クーラーが効きすぎて寒すぎました。先生は高い位置にいて動き回っているのに寒くないかもしれませんが、学生は寒かったはずで。

今回欠席している学生が多かったとのことですが、こうした関心が薄くやる気のない学生のケアも重要な問題であると思われました。

設問2について

岡田先生の授業を見て、活を入れられました。頑張るって授業をしていかなければいけないんだと、今さらながら思っています。あと、教室にある機材の使い方も習熟して、パワーポイントを使った授業も、少し発展させてみようかなと考えています。

設問3について

初めて英語の授業を参観して、参観者にも授業当日に行うテキストの該当箇所のプリントがあったら良かったなと思いました。今回、検討会を45分くらい行ったのですが、意見が活発に出てとても有意義でした。他分野の授業でも、教育改善の問題において多くのことを共有していることが分かりました。また、専門を異にする先生からの意見は、自分の授業を客観視するのに役立つことが分かりました。

授業者のアンケート

設問1について

前期15回のうちの1回の授業として、日常、ありのままの授業を参観していただけたと思う。学生の反応も通常のものであったが、特に積極的に参加しようとする学生が増加してきた現場を、偶然お見せすることができた。

授業の運営方針（日常ポイント加算制）が影響していることもあるが、欠席者数が若干多かったのが残念である。（約7～8名の欠席（履修放棄と考えられる学生も含む））

設問2について

参観者からの御指摘にもあったが、以下の点について、一層の検討を加えていかなければならないと感じさせられた。

上級学習者に対するfurther studyへ向けてのフォローアップを、どのような形で行うか。

文字情報と視聴覚情報の量的バランスは適切であるか。

授業時間帯の分割（インターミッション）も必要ではないか。90分間連続の集中は、学生にとって、やや負担が大きいのではないか。

発言している個別学生の音声は拡声して、全学生に明瞭に聞かせる必要があるのではないか。

英語（R）本来の目的と、どの程度合致しているのか。

設問3について

最も痛感させられたのは、英語教員同士の意見交換の必要性である。人文学部には、「教養の英語」の時間がない（専門基礎英語のみ）ため、山形大学の教養教育全体における英語教育の位置付けが不安定である。外国語教員の根本的な意識改革が迫られている時期である。各教員の授業（外国人教師・非常勤講師を含む）内容は、ブラックボックスであってはならないと、改めて認識した。

三公開授業4

授業科目名：ドイツ語 C

授業者：渡辺 将尚（人文学部）

公開日時：7月8日（火）10:30～12:00

授業参観者のアンケート

参観者1：人文学部

設問1について

教員の熱意はよく伝わってきました。

学生が、きちんと真面目に授業に参加していて良い。先生の指導力が良い。

・ノートなどがちゃんと各自の手元にある。何かのピラなどに筆記している人がいないのは、すばらしいことである。（ノート不持参の学生が増加中）

・パソコン利用は、学生の興味を引くことや気分転換の上で効果がありそうである。各自の席にパソコンのある教室（無線LAN）があれば、なお良さそうです。

設問2について

先生の音声、板書の仕方などが参考になります。

・私語、メール、居眠り的人が見当たらなかったのは、学生数の関係なのか、参観を意識してのことか、それともこれが普段の姿であるのか、改めて反省させられました。

設問3について

教室が大きすぎる気がしましたが、無線LAN使用可の教室が少ない故と知った。各教室にVideoやパソコン、LANの設備が充実すると良いと思いました。

授業中のある例文について、自分ならこうする、などということを示して教えるので、検討会には意義があると思う

参観者2：人文学部

設問1について

示唆に富んだ授業でした。今後の教育の参考にさせていただきます。

設問2について

自分の教育方法が古めかしすぎたと反省しています。

設問3について

検討会に参加できませんでした。

参観者3：人文学部

設問1について

教授者と学生の間、相互的な伝達を極めて自然に行っている空気があり、とても好ましい学習の場が作られているという印象を持った。

上記に付言すれば、教授者の明瞭かつ適度な発音指導、教室のどこにいても聞き取れるスピーディな説明、これらの繰り返しが結実したと推量した。

教授者は、すでに独自の教授法を確立しているようで、説明 - 語りかけ - 促し - 学生の発表 - 引き取り(または異なる角度からの再質問) - 学生の理解 = 正解の発表と続く。一斉練習で、学生が良く声を出すことからそれを察することができ、非常に質の良い授業であると思われた。

設問2について

教授者氏とは反対のことばかりで、自分ならとてもあのような授業は、もはや無理ではないかと思われ、内心自信(というほどのものはないが)を失いかけているのに気づいて、新たな方法へと心を向けている所である。

若い先生と中年教師では肉体的条件が違い、性格も異なるのは当然としても、やはり渡辺先生の美しき個性が教室でも発揮されているのを目の当たりにすると、(私がいつも夢想している)人格による教育は可能かと意を強くする。

少々気になる部分を書いて、若いエネルギーと均衡を取ることになると、学生への声かけや促し、また心地よいスピードの授業は目的に添ったという意味で、ほとんど批判の余地がない。しかし、授業ユニットでも表現したら良いか、中学生に教えているような型ができてしまうことがあれば、知的刺激を高める意味からも、固定化には注意あるべしと自戒を込めて記しておきます。

設問3について

公開授業当日の夕刻に開かれた検討会は、参観者の半数が出席したに留まったが、要点が的確に述べられ、1時間に満たない割には、中身の濃い検討会になったと考える。(本アンケートは、その時の内容がほとんどである。)

今のところ少々時間と勉強不足(私だけのことで)ですが、すぐには無理と思うが、教授法に、例えば言語学やらの知識・方法を活かした理論的土台を置く工夫をしたいものである。

参観者4：人文学部

設問1について

途中からだだったので、あらかじめどこまでやっているのかはよく分かりませんが、先生が一方向的に説明するのではなく、一緒に考えさせながら進めているのは良かったのではないかと思います。

コンピューターには、ソフトが準備できるのであれば、学生の注意や関心を引きつけるには有効だと思います。ゲーム感覚で楽しめる部分もあるでしょうか。

設問2について

これだけは言うておかなければと、ついつい説明の多い授業になりがちですが、学生が退屈したり飽きたりしない工夫が必要だとは常々思ってはいても、なかなか変化に富んだ授業にはならないなど感じています。コンピューターがなくても、何か楽しい作業をしながら、考えさせたり、覚えさせることができればと思います。

設問3について

先生の声がとても大きく元気潑刺としていて良かったと思います。元気の授業は学生の学習意欲を駆り立てるかもしれないので、コンピューターを使って、例えば、今日の3、4格支配の前置詞はどの程度身に付いたのか効果が分かればと思います。

授業者のアンケート

設問1について

事前をお願いをした先生方以外、誰も来ていただけなかったのが残念でした。現在、ドイツ語が取り組んでいる授業改善への取り組みを知っていただくため、もっと多くの先生方に声をかけるべきでした。

設問2について

数人の教員が見ているにも関わらず、居眠りする学生がいました。そのようなモチベーションの低い学生を、どのように指導し、効果を上げていくかが、今後の課題だと感じました。

設問3について

参加した先生方より、学生の興味を引く教材の作り方について、非常に役に立つアドバイスをいただきました。

数字がすべてを割り切ってしまう授業アンケートよりも、このような公開授業検討会がもっと重視されても良いのではないかと思います。

【後期】

三 公開授業5

授業科目名：なぜ人を殺してはいけないのか(哲学)

授業者：平田 俊博(教育学部)

公開日時：1月15日(木) 14:40~16:10

授業参観者のアンケート

参観者1：教育学部

設問1について

この授業のタイトルを始めて見た時、はっとしました。誰もが興味を引くタイトルです。授業はこのタイトルをつけた授業者らしくとても意欲的なものでした。言葉も明瞭で、黒板に書く字もとても上手でした。今年から使い始めたというパワーポイントは授業中うまく作動しませんでした、そうしたトラブルにあっても授業が中断することがなく、うまくいったなと感心しました。

ただ、授業全体の構成が幾分散漫だったように思われ、学生もフォローすることができなかつたようです。授業の章立て、項目立てをきちんと整理されれば、学生ももっと授業にのめり込み、理解もしやすかつたと思います。

設問2について

時代が求める新しい授業テーマに果敢にチャレンジされている平田先生には敬服いたしました。私自身もチャレンジ精神を忘れないようにしたいと思います。

設問3について

今回は参観者が私一人だけだったので、私一人のコメントが重きをなしたようです。やはり、もう一人くらい参観者がいれば、コメントも多面的になり、同時に、より客観性をとおびることができたと思います。複数の参観者が欲しいですね。

授業者のアンケート

設問1について

接触不良で、パワーポイントの投影が不可だったので、授業計画が徹底できなかった。

プリントの印刷で、下段が切れていたのに気づけなかった。

設問2について

板書を順序よくすべきだと思った。

学生に考える時間を与えるべきだった。

学生から4～5名代表者を選んで、壇上でディベートさせたら良かった。

設問3について

パワーポイントを頼らずに、もっと板書を活用すべきという提言など、非常に有益だった。

参観者が小田先生お一人で、もう少し丁寧に多くの人にお願ひしておくべきだったと反省した。

小田先生には、実に丁寧にアドバイスをしていただき、感謝しております。

三公開授業6

授業科目名：ドイツとヨーロッパ諸国(教養セミナー)

授業者：クリストカゴシマ(人文学部)

公開日時：11月26日(水) 13:00～14:30

授業参観者のアンケート

参観者1：人文学部

設問1について

ドイツ文化について、細部に渡るまで詳しく説明がなされ、ドイツ人教師ならではの授業でした。どれだけ長いドイツ語圏滞在歴があっても、日本人の教員には、ここまでの授業は不可能だと思いました。

設問2について

言葉で説明するだけでなく、視覚的な要素(ビデオ、パンフレット、写真、絵など)を多用していました。これは、あらゆる授業に応用できるものだと思います。

設問3について

非常に有意義であると思われます。より活発に行われることを希望します。

三公開授業7

授業科目名：新・生命再考(教養セミナー)

授業者：小田 隆治(教育学部)

公開日時：12月17日(水) 14:40～16:10

授業参観者のアンケート

参観者1：学生

設問1について

ディベートということで、勝敗がつくわけだが、そこに固執せず見解を述べるという意味で良かったと思う。ただ、個人的にディベートは、「自分の意見とは違うことを主張しなければならない」ということで、好かない。

設問3について

ディベートの勝敗基準を述べてもらったこと。説得という要素として、何があるのかということが分かったのは、とても参考になった。また、個々人の自己評価を聞いたのも面白かった。事務の方々と様々な意見交換が為されたことも良かったと思う。

参観者2：学生

設問1について

自分の目標が達成できたと思う。良かった。



設問3について

事務職員さんのお話が聞けて良かった。今後の自分に活かしていきたいと思う。

参観者3：学生

設問1について

セルフ覚えなしに表現なし、蓄積なしに自信なし。

参観者4：学生

設問1について

負けて悔しい！調べる時間が余りなかった。

設問2について

自分の意見と反対のことをいうのがイヤだ。

設問3について

笑いが一番取れたから、良かった。

参観者5：学生

設問1について

第三者から、多様な視点で見られるという点は、とても良かったと思う。

設問3について

とても有意義なものだったと思う。これからも続けていくべきであると思う。

参観者6：学生

設問1について

1位になって良かった。事務の仕事が良く分かった。

設問3について

開く機会を増やした方が良く思う。

参観者7：学生

設問1について

非常に楽しくディベートができました。自分、他人とも前回と比べての成長を知ることができました。

設問3について

事務の方と話す機会はとても貴重でした。

参観者8：学生

設問1について

負けて悔しかった。もっとやりたい。

設問3について

発表中は、あまり事務の人は意識しなかったが、話してみると面白かった。留学生センターに行こうと思う

参観者9：学生

設問1について

予習が辛いです。自分の能力の弱い部分が良く分かった。

設問3について

事務の方と意見交換できたので、この点は良かった。このような場が増えると良いと思う

参観者10：学生

設問1について

自分の成長に役立つことが得られた気がして、とても良い授業だと思った。もっと自分の特徴を活かして、自分を高めたいと思う

設問3について

また違う意見が聞けて良かった。こういった学生と事務職員が話せる場があったら良いと思う

参観者11：学生

設問1について

とても楽しくできた。人の意見を聞くというのは大事ななあと考えた。

設問3について

やっぱ勝つとうれしいですね。自信ができました。



参観者12：学生

設問1について

面白かった。1位になれて良かった。かなり自信ができました。

設問3について

緊張しました。

参観者13：学生

設問1について

緊張しっぱなしでした。でもとても良い勉強になりました。このような緊張感を持つことは、とても良いと思う。終わったから

言えるんですけど。精神的にも頭の中も鍛えられました。

設問3について

事務の方達は、緊張と授業で頭がいっぱいのため、あまり気にならなかった。このような機会はたくさんほしい。

授業後の交流会がとても良かった。大学内で事務の方達と学生の交流がない限り、歩み寄れない。双方にとって良くしていけない。

参観者14：事務職員

設問1について

講義形式、セミナーと違った授業のため、学生の明るく、ハキハキとした雰囲気での授業をみることで、楽しかった。学生が予習の段階でデータをよく調べて受講していることに、この授業の良さを感じました。

設問3について

授業中は、参観者の反応も気にしながらのプレゼンを行うのが、言葉を選び、インパクトを付けながら話す様子で分かりました。この授業の良さは、今後社会人になっても活用できる力を養うことができるところにあると感じます。

参観者15：事務職員

設問1について

全体として一体感があり、学生を主体としたテンポの良い授業でした。狙いと思われるプレゼンテーション能力の開発と、自ら学ぶという方向性が良く表れていました。

設問3について

事務が学生とコミュニケーションを持つ新しい形、方向性が示されたような気がします。事務が授業に直接関与するのは異例だとは思いますが、多様な形で大学の一体感が生まれていくのは素晴らしいと思います。大変楽しかったです。ありがとうございました。



参観者16：事務職員

設問1について

「ニ公開授業&三公開検討会」ということでしたが、学生のディベート形式が新鮮で、面白く参加させていただきました。学生の発想や切り口、語り口、それぞれの個性が感じられました。限られた時間の中で、自分の意見をいかに相手に伝えることができるか、論理的にものごとをとらえるかという点で、難しさを覚えました。ただ、感情をもう少し抑えた上で、相手の意見を自分のものとして受け入れ、さらに自分の意見を加えて言えるようになったら、もっと進んだものになると思いました。

設問3について

私にとって、山形大学の授業に参加するというのは初めて

の事でしたが、自然に授業にどけ込める事ができて楽しかったです。普段はカウンター越しでしか会う機会のない学生と、近い距離で意見を交換できたのも参考になりました。今後は、このような場をもっと増やしていただきたいと思いました。ありがとうございました。

参観者17：事務職員

設問1について

教員と学生との関係がとても良く、とてもエネルギーに満ちた授業でした。学生の、前回の反省点を今回に活かそうという姿勢が伝わってきました。皆積極的で、教員も楽しそうでした。

設問3について

学生、事務ともに自由に話ができて、良かったです。学生の臆することのない質問、意見が大変有益なものでした。このような場が、今後も増えれば、より学生側に立った大学になっていけると思います。

参観者18：事務職員

設問1について

正直に言って、今の学生でもやればここまでできるのか」と、受講生のパワーに圧倒される授業でした。ディベートは前の週に続き2回目とのことでしたが、少人数学生主体型授業の密度の濃さを実感しました。

設問3について

今回は、授業者、受講生、事務職員と異色の組み合わせでの三公開授業＆三公開検討会となりました。学生、教員、事務職員が、1つの授業を媒体として、中心に向き合うという構図が具現化され、授業方法の改善云々ではなく、「大学」というもの本来あるべき姿を見たような気がします。

また、学生と事務職員との関係も、壁もカウンターもなく、気軽にフツと立ち寄って、雑談混じりに話せるというくらいのソフトさがあれば良い関係が築けると、しみじみ実感しました。

授業者のアンケート

設問1について

今回で2回目のディベートだったのですが、学生は前回のディベートの経験によって、その進行など手馴れたものでした。参観者のみなさんは、まずそれに驚かれていたようです。あと、前回下調べをしておこなったチームが、議論をする前提として下調べをしないことは、相手に対して失礼にあたる」として、頑張っけて調べてきたことには感心させられました。授業はいつもどおり学生が主体的にのびのびとやっていました。

設問2について

ディベートのテーマに関する情報を学生は前もって自学自習してきます。それにかなりの時間を要するそうです。こうした予習を強制しているわけではありませんが、彼らは仲間同士で高めあっています。こうした学生の学習コミュニティの形成を促していくことが、これから重要になっていくのでしょうか

設問3について

今回は本学の5人の事務職員の方々に授業を参観していただき、検討会を行っていただきました。検討会には履修者全員も参加しました。学生と事務職員そして教員の三者が、

授業に対して意見交換をすることができてたいへん有意義でした。事務職員の方々には、学生の忌憚のない質問や要望に、誠意を持って丁寧に答えていただきとても感謝しています。学生も事務職員の方々から多くのことを学んだはずで

これから大学の中身が益々市民に公開されていくこととなりますが、それ以前に大学の当事者である事務職員が授業について知ることは必要なことだと思います。互いに理解と信頼を深めていくことが、大学の発展にとって急務のことでしょう



三公開授業8

授業科目名：農地と人間(総合)

(リモート講義システムによる講義)

授業者：夏賀 元康(農学部)

公開日時：11月10日(月) 14:40~16:10

授業参観者のアンケート

参観者1：農学部

設問1について

今回の講義は、パワーポイントを使い、その内容のコピーが講義前に配布され、とても理解しやすいものでした。講義内容の構成も十分に練られていて、タイトルの「農業革命と生産性の向上」について、技術の発達を通じ、生産性がいかに向上したのかが、スムーズに理解できるようになっていました。講義の最初に、今回の講義のアウトラインの紹介があれば、さらに聞きやすいかもしれないと感じました。

設問2について

理解しやすい講義の重要性を再確認しました。大人数の教養教育の講義では、大変難しいことですが、できるだけ学生が考える時間を作ることも必要に思いました。例えば、当日講義する内容について簡単な問題を作成して、講義の最初に10分くらいで記述してもらおうと、その問題について、多少は自分の頭で考えるかもしれません。

設問3について

他の人の講義を聴くことは、自分の講義を振り返ることにもなり、参考になる点が多々ありました。

参観者2：農学部

設問1について

今回の三公開授業は、リモート講義で行われた。農学部側には出席学生はおらず、もっぱら小白川の学生に対するリモートを通じた講義であった。私は初めてリモート講義を参観したので、技術的な面で非常に参考になった。例えば、

授業開始のかなり前(1時間程度)から、回線の接続等の準備をする必要がある。

小白川のモニターにどの画像が映っているのかを、常にチ

エックする必要がある。

小白川の教室の照明を消すと、こちらのモニターが真っ暗になり、学生の様子をうかがうことができない。

画面を切り替えた際には、それが小白川まで送信されるのに1分近くかかるので、小白川の画面が切り替わるまでしばらく待つ必要がある。

等のことが分かった。

授業内容全般については、前半の農業技術史の話と後半の農業機械の話の境目で、質問コーナーを設けるなどして、学生の気分転換を図ると良いのではないかと思った。

設問2について

授業担当者は、写真、図を多用していた、私もかなり使っているが、もっと多用しても良いと思った。特に、授業担当者は、インターネット上から探してきた材料を、効果的に使っていたので、この点については参考にしたい。

話し方にはかなり抑揚をつけないと単調になるものと思われた。普段、授業中に学生に質問したり、挙手させたりして単調にならないよう心がけてはいるが、今後はこれらを効果的に利用したい。

授業担当者は、余談やジョークを時々取り入れていたが、すべて手短に触れられていた。もし、私自身の授業で余談やジョークを取り入れるのであれば、もっと学生に強く印象付けるようにした方が良いと思った。

設問3について

授業の質を高めていくために、非常に効果的であると感じた。基本的に全科目を対象として組織的に行えば、全学的なレベルアップにつながると思われる。どうせやるのであれば、あらかじめ公開日と参観者を指定して行うのではなく、不特定の人がいつでも参観できるようなシステムの方が効果的だと思う。

授業者のアンケート

設問2について

・1F-1講義で教養側の反応が判らず、休憩のタイミングが見えない。

・教養側の機器構成が判らないので、説明にとまどった。来年以降は解消されるだろう。

・1F-1講義には専門職員を講義開始前に双方に付け、動作の確認をしてほしい。

・自分の講義を他教員に公開するのは初めてだったが、学生と違うので、多少の緊張はあったものの問題なく完了した。他の教員の講義にも非常に興味があるので、積極的に公開してほしい。

設問3について

・非常に有益な意見をいただいた。今後の講義の参考にしたい。

・他学部の講義も、機会があれば参観したい。

三 公開授業9

授業科目名：ドイツ語 C

授業者：奥村 淳（人文学部）

公開日時：11月25日（火）13:00～14:30

授業参観者のアンケート

参観者1：人文学部

設問1について

昨年度も奥村先生の授業を見せていただきましたが、今回は、異なる学部に対する異なる指導方法をみることができ、新たに学ぶところがありました。

設問2について

以下の点が、大変参考になりました。

- ・既習事項のこまめな確認
- ・最新のドイツ事情を取り入れた例文
- ・机間をまわりながらの個別指導

設問3について

ドイツ語担当者内部では、自分の授業を公開し、改善していかうという考え方が、だいが定着したように思います。このような取り組みが、さらに盛んになれば良いと思います。

参観者2：人文学部

設問1について

The students were always busy. They had no problems in writing their sentences on the green board. The worksheet was well structured.

設問2について

Interesting and worth imitating was the adoption of German Television News to this lesson and the fact that it was only one news, which could be heard in German. The students could read this news, too. By seeing, listening to, and talking about it, they learned new words and practiced their grammar.

設問3について

I think it is very good that colleagues visit each others' lessons. Teaching is a public profession. We can learn from each other to make our lessons better.

参観者3：人文学部

設問1について

ドイツ語Cであっても、文法を抜きにはできないので、ニュースを見せて、その中の文章を取り上げて文法説明と結びつけるというのは、学生達により興味を持たせるでしょうか。

設問2について

「質問は？」と言っても、授業中に質問をする学生はごく限られるので、時に宿題を提出させるのは、良いのではないかと思います。それぞれの理解の度合いが確認できるだろうから。

設問3について

長年の間、他の先生の授業を参観する機会などなかったので、比較できてとても参考になると思う。

授業者のアンケート

設問1について

特に念入りの準備はしなかった（できなかった）ので、あれが普通の授業かもしれません。ただ、やはり緊張はします。（どうしても早口になる）

・昼食直後のあまり良い時間ではないが、ほとんどの学生諸

君はよく協力参加してくれました。

設問 2について

もっと、一つの授業をきっちりと構成できると良いのですが、何分、相手のあることですから、無理であろう。(特に外国語は)

もっと学生の名前を覚えておくと良いと思いました。

設問 3について

・ZDFのAKW(原発)ニュースの他に、自然エネルギー関係のニュース(ドイツ)も見せるはずでしたが、できなかった。しかし、「一つにしたのが良かった」と言われたので、なるほどそうかと、改めて思いました。(詰め込みは逆効果であるということ)

では得る所が大きいと思うので、学生達の積極性が足りないのが残念。このような授業には、人数が多すぎるのかもしれない。

設問 2について

単調になりがちだが、今日のように変化に富んだ授業、聞き取りをやり、ビデオを見せて表現の練習、ニュースを見せる等、学生の関心を引くようにしなければと思う

設問 3について

自分の授業を振り返るチャンスとなって良いと思う

三公開授業10

授業科目名：ドイツ語

授業者：クリスト・カゴシマ(人文学部)

公開日時：11月25日(火) 10:30~12:00

授業参観者のアンケート

参観者 1：人文学部

設問 1について

教室の雰囲気がすばらしかった。楽しそうな学生が多いよかったです。

学生の授業参加の意欲が強かった。

・ZDFのニュース(?)で、ドイツ語の年齢を、即理解した学生が何人かいたことは稀な例であると思う

授業の構成が良かった。(念入りなプラン)

設問 2について

なかなか学生の名前が覚えられません。カゴシマ先生は、良く覚えておられます。

あのような明るい空気にできると良いのですが。

設問 3について

メンバーなどが固定されるべきではないと思うのですが、時間の関係で、なかなか他の人を参観できないのが残念です。

参観者 2：人文学部

設問 1について

学生に考える機会を多く与える授業だと感じました。ただ、教室全体のモチベーションを高める努力が伴っていないと、一部の意欲ある学生のためだけの授業になってしまう可能性があると思いました。

設問 2について

教材が豊富かつ多彩でした。あくまで授業の本筋を見失わない限りにおいて、授業に変化を持たせることは有効であると感じました。

設問 3について

毎回のことながら、非常に有意義であると思われます。より活発に行われることを希望します。

参観者 3：人文学部

設問 1について

ネイティブの教員による授業は、会話を学びたい学生にとつ